



森脇 徹 議員

人生の最終段階を住み慣れた高島で、希望に寄り添った最期が過ごせるように

問

余命宣告を受けた患者さんが、高島で安心して療養できる地域包括ケアシステムの整備は

答

ご本人の希望に沿いながら、住み慣れた地域で安心して生活していただけるよう、システムの更なる充実に努めます

問

「緩和ケア病棟」は高島にはないがターミナルケアでの生活を市内で望む方が、住み慣れた高島で安心して療養できる医療介護施設、地域包括ケアシステムでの整備は充分か。

答 健康福祉部長

人生の最終段階を迎える前に「たかしまマイウェイノート」を作成する中でご本人の意思が尊重され、その人らしい生き方ができるよう、人生の最期をどう過ごすか、どのような治療や介護を希望するかについてご家族等で人生会議を開き、書き留めていただいております。

答 健康福祉部長

市の調査では、人生の最期を迎えたい場所を「自宅」と回答された方が54.4%、次いで「病院」、「介護施設」の順です。自宅を希望されるのであれば、往診できる医療機関や訪問看護・介護サービスなどが連携し、ご本人やご家族

族の意向に沿った生活を最期まで支援することが必要となります。そのため、医師会のご協力のもと在宅医療連携コーディネーターを配置し、医療と介護の連携推進を図っています。

問 市民病院の緩和ケア外来と

がん患者相談支援センターは、患者の拠り所となっている。地域で安心して生活できる道筋を歩む上での現状と課題は。

答 病院事務部長

患者様やご家族から早期に

ご相談いただくことで、主治医や関係者との連携が図れ安心の生活に繋がると考えます。また、終末期の患者様の意思は変化しやすく、本人や家族等との話し合いを繰り返して行うことが課題です。

問

市民病院は、地域がん診療病院として、がん専門病棟を視野に入れているか。

答 病院事務部長

緩和ケア病棟は、個室にするなど建物的大幅な改造や専門医師・看護師の増員が必要となることから、計画はございません。しかし、緩和ケア認定看護師や他職種による緩和ケアチームで、患者様に寄り添った支援を行っております。

その他の質問

- ・所有者不明農地の対応マニュアルについて
- ・いちご農園補助金未回収問題、二度と起こさない市規定を